

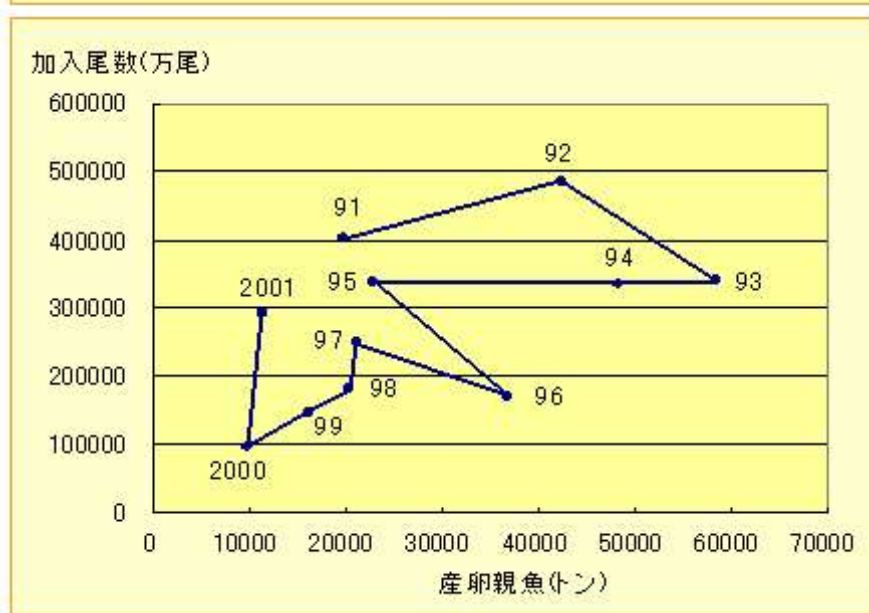
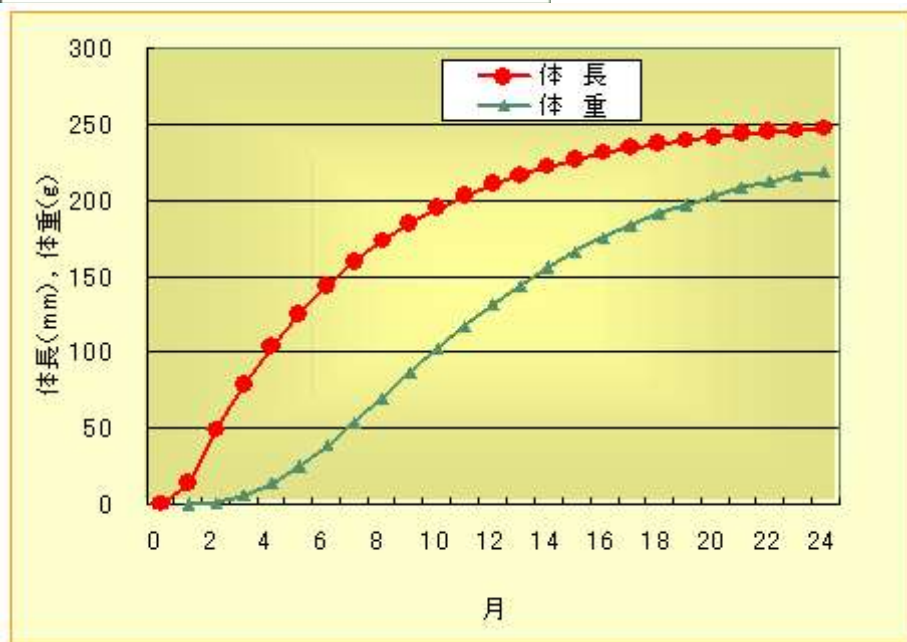
ウルメイワシ *Etrumeus teres*

対馬暖流系群 担当：西海区水産研究所



生物学特性

- 寿命： 2歳
- 成熟開始年齢： 1歳
- 産卵期・産卵場： 東シナ海では周年、日本海では春季である
- 索餌期・索餌場： 夏～秋季、日本海西部～東シナ海
- 食性： 稚魚期・成魚期とも動物プランクトン
- 捕食者： 大型魚類やほ乳類、海鳥類、頭足類



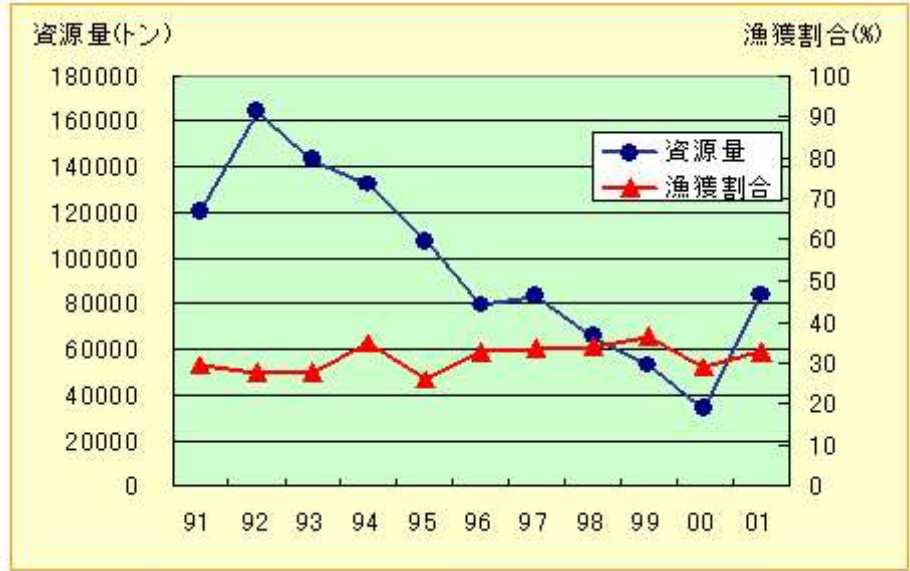
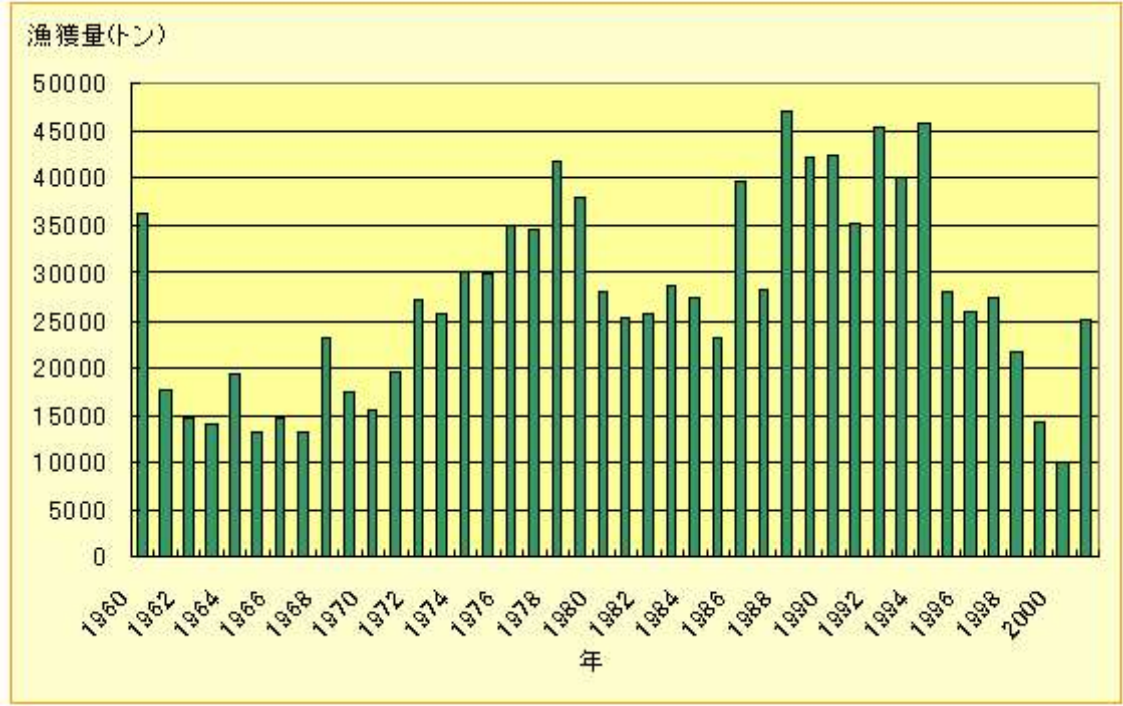
漁業の特徴

対馬暖流域では東シナ海区では中小型まき網や敷網、日本海西区では大中型まき網、中型まき網、定置網、敷網により漁獲され、日本海北区では定置網、敷網、まき網などで混獲程度である。漁獲が多いのは東シナ海区と日本海西区である。

漁獲の動向

東シナ海区において1981年から1997年までの漁獲量は約7千トンから15千トンで推移していたが、1998年から2000年にかけて減少した。2001年は2000年を大きく上回っ

た。日本海西区において1980年代の半ば以降漁獲量が増加し、1992年には約31千トンであった。その後減少したものの、2001年の漁獲量は2000年を上回った。日本海北区においては、あまり漁獲されない。

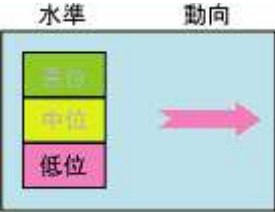


資源評価法

コホート解析(1月～12月を1漁期とし、Popeの近似式を用いた)。寿命は2歳とし、最近年のFは過去3年間の平均値とした。ほかに、ノルパックネット鉛直曳による卵豊度の推定を行なった。

資源状態

コホート解析から計算された資源量は、1992年に164千トンのピークを示した後、減少しつづけ、2000年には近年で最低の34千トンとなった。2001年は当歳魚の加入がよく、84千トンと推定された。2001年に推定された卵豊度は、2000年よりも低かったもので、当歳魚の生残がよかったものと推察される。



管理方策

本資源は当歳魚を主体に漁獲しており、加入の成否により漁獲量が決定される。2001年は2000年よりも加入がよかったと考えられるため、2002年の産卵親魚量は増加するものと思われる。今後の加入状況を注意深く見守る必要がある。現在は資源水準が低位であるので、現状のFよりも低い30%SPRを満たすFに0.8を乗じたFをFlimitとし、ABCを算定した。ABCtargetはFlimit×0.8を満たすFをもとに算定した。

	管理基準	A B C (トン)	漁獲割合	F 値
A B C limit	0.8 F30%	21,400	25.2%	0.8
A B C target	0.8 0.8 F30%	18,200	19.9%	0.6

資源評価のまとめ

- 漁獲量は加入の成否により決定される
- 2001年の加入は2000年よりもよかった

管理方策のまとめ

- 近年加入の変動が激しいので、今後の動向を注意深く見守る必要がある
- 資源状態を低位から増加させるには、現状のFをやや下げる必要がある